



「見たり、聞いたり、探ったり」No.282

通算 No.433

青木行雄

日青木材(株)設立45周年記念祝賀会
「感謝の集い」の開催に感謝

2023年(令和5年)7月1日(土)に明治記念館2階「富士の間」大広間においてコロナのさめやらぬ中、大勢の方々のご参加により盛大に開催出来ました事に感謝の心でいっぱいである。本当にありがたく感謝と、一生のうちに何回もない大感動に、生きていて良かったと自分の脳に、全身にこの衝撃を伝えている。

ご参加頂いた菊地 實様よりすばらしい「感想文」をいただいたので、私のことを中間にはさみながら、経過報告としたい。菊地様に心から感謝。

菊地様「令和5年7月1日(土)、明治記念館2階「富士の間」は、午前10時半の受付開始前より、この宴に出席する多くの人々で混雑していた。受付を済ませた人は渡された祝賀会の席次表をながめ、その人数の多さに目をみはる。3年という時間、コロナであらゆる行事は自粛または中止に追い込まれていて、これだけの規模の会が出来たこと一人、ひとり感慨をおぼえているようだ。そして300人にせまる列席者の顔ぶれに目をうつすと、この日に集うメンバーが木材業界にとどまらない多士済々の面々であることにすぐに気がつく。青木社長のこれまでの交遊と数々の交流会を主催していることを知っている人なら納得するだろうが、それを知らない人にとっては「このメンバーがなんで」と疑問がわくのも当然であろう。さらに木材業界の人間なら、業界の顔といわれる人々が揃っていることに驚くだろう。そこでは重鎮と呼ばれる人だけではなくこれからの時代をになう若手の有力者が勢ぞろいすることで、新旧の実力者が一堂に会するという構図が出現したのだ。



胡蝶蘭と生花、明治記念館にて



明治記念館の生花、入口前に飾られた



司会するA・ウィッキー氏と進行の木下さん



無形文化財「木遣り」の人達、素晴らしい、祝唄を披露してくれた



最初に登壇し挨拶する我社の営業部員達



来賓祝辞、柿澤未途衆議院議員



来賓祝辞、全日本市場連盟会長
市川英治様



来賓祝辞、東京木材問屋協同組合
理事長庄司良雄様

これは青木 一さんの経歴とその交友関係から導きであることが、参加者には宴が進むにつれてわかっていくことになる。事前にこの日準備を進める中で、両者は、祝宴の出席者の人選をかなり練りこんで作り上げている。それはあくまでも内々にすすめられた行動だと思う。

会場内に入った出場者たちは座席表に目を落とすが、なかなか顔があがらない。バラエティー豊かな顔ぶれにいくら見ても見飽きないという風情である。私も個人的にプロレスラーの藤波辰爾さん、故力道山夫人田中敬子さんの出席にテンションが上がってしまった。式次第を見れば、芹 洋子さんの歌の時間まであり、思わず芹さんの姿を会場でさがしている自分に気づく。どんな宴になるだろうか、期待はふくらみ開会の時間が待ち遠しくなるが、会場内ではあちらこちらで挨拶を交わす出席者が本当に多い。それはそうだろう、これだけのメンバーなのだから挨拶をすべき人が多くなるのは当たり前だ。自分も失礼のないように事前に挨拶すべき人の姿をさがす。だからそれぞれ忙しく、あっという間に開会のアナウンスが聞こえてきた。』

菊地様『まず司会のアントン・ウィッキーさんが紹介される。テレビ番組の「ワンポイント英会話」が懐かしい。スリランカ出身であることがわかり、本日スリランカ大使夫妻が来られていることに納得する。今も首都圏の各英会話教室で講師を務める非常に忙しい方だが、そんなウィッキーさんが青木社長の催しには、必ず参加されていることを青木社長に近い方々にご存知だ。深い絆を感じる。会場内のスクリーンに「御歳は青木さんより一つ上だそうです」と紹介された。そんな、縁の深いウィッキーさんが司会進行で宴は幕を開けた』

菊地様『「木遣り」の勇壮な歌声が会場内に響き渡る。

江戸時代から続く木場の木遣りは材木商たちが伝承してきたものだ。木遣り達の後方について入場して来た青木社長を始め営業社員達が先にステージに上がり整列の後歓迎の頭を下げた。その後入れかわりに木遣り連がステージに上がり、祝唄を披露してくれる。今日はやけに声が響いていると思ったら、人数が多い。「木場うち」では見る機会が多い木遣りだけれど、いつも見る人数より多い。木遣り衆も「気合が入っているな」と感じた』

青木の挨拶文

青木『皆様こんにちは。本日はご参加いただき誠に有難うございます。当社は昭和54年に新木場3丁目



乾杯をお願いした、太田資暁様
太田道灌18代子孫 江戸城天守を再
建する会、会長



来賓祝辞、スリランカ大使、ロドニー
M・ペレーラ様



ロドニーM・ペレーラ、スリランカ
大使と2ショットの青木

にて「杭丸太協同組合」(大秀木材の松永様、小林林業の小林様、中央木材工業の土居様、与志本林業、丸八木材、信州木材、阿部産業)など皆様のご協力のおかげで始業することが出来ました。大変苦勞も有りましたが、こうして45年目を迎える事が出来ました。杭丸太協同組合は解散し今はありません。解散時にはメンバーも大きく変わり、5社程でした。整理につきましては、コバリンの千葉様を始め、皆様には大変お世話になりました。今日ご参加の皆様方からの暖かいご支援とご援助により、こうして「感謝の集い」が出来る幸せを心にかみしめ、心から御礼と感謝を申し上げる次第であります。

我が社は小さな会社では有りますがどこかピリッと辛く、特徴があり、魅力的な会社にしていきたいと常々考えてまいりました。

今日は短い時間ではございますが時間の許す限り、当社の思いをご理解頂き、この明治記念館の雰囲気とご料理などお楽しみください。

本日は本当に御参加有難う御座います』

菊地様『青木社長より開会の挨拶がおわる。私は初めて聞く「杭丸太協同組合」の名前が新鮮だった。すでに解散して今は無いことや、その組合のメンバーの協力で日青木材(株)が、スタートすることが出来たことなど、短い言葉の端々に45年前の創生時の労苦が浮かび上がる挨拶であった』

菊地様『柿澤未途衆議院議員、市川英治東京木材市場社長、庄司良雄問屋組合理事長、ロドニーM・ペレーラスリランカ大使と次々と来賓の祝辞が続く。とくにペレーラ大使は英語でスピーチされ、古く幕末の頃から多くの日本人が欧州に行くときにスリランカの首都コロンボが、中継地として誰もが旅装を解いたところで、その中には幕末外交使節団一行、福沢諭吉の名前があること、大使は青木社長は福沢諭吉のふるさと大分県中津市である事を知っているのだろう。日本とスリランカ両国間で培われてきた奥深い友好関係のエピソードがとても印象的だった。そして、大使の英語を司会のウィッキーさんが日本語になおすという形に驚かされる。お互いに絶妙のタイミングで交代する。ウィッキーさんは前もって原稿ぐらいもらっているのだろうと思っていたら、まったくもらっていないことを通訳の中で明らかにされた。「すごい、本当に同時通訳を目の前で聞いた」とちょっと感動してしまう』

菊地様『乾杯は江戸城天守を再建する会の太田資暁会長が音頭をとる。「でも、太田道灌18代子孫っていったい何年なんだ」調べると1486年に死亡だから530年以上にわたる家系であることに驚く。冒頭、本



会場風景と花束を受けて頭を下げる
青木



角度を変えて場内を見る会場風景



最後に我社の社員全員も登壇し、藤波
プロレスラーの音頭で万歳三唱した

日御礼の品として青木社長の執筆された「木・希・輝（感謝の旅日記）」の紹介があった。この本については36年間にわたる東京木材問屋協同組合の「組合月報」に連載されたものから選んで編纂されたものであることを説明された。太田氏は「木・希・輝」の帯に推薦の言葉を寄せている。表題は「好奇心旺盛な深川木場の旦那の紀行文」である。うまいこと言ったものだと感心する』

祝電紹介

①吉田 繁 様

木材・合板博物館理事長、ジャパン建材(株)相談役

文-「創立45周年おめでとうございます。貴社の今までのご功績に敬意を表すとともに、今後のさらなるご繁栄をお祈りいたします」

※本人吉田 繁様も会場に参加頂いた。

②鷺尾隆久 様

平安神宮(京都) 宮司

文-「日青木材(株)、設立45周年「感謝の集い」開催を衷心よりお慶び申し上げますとともにご参会の皆様様の益々のご健勝を祈念致します」

③三菱UFJ銀行 他、21社より頂きました。

④胡蝶蘭 他 生花、盆栽、32社より頂きました。(明治記念館&会社)

菊地様『その後、祝宴は歓談に移る。明治記念館の料理人たちが惜しむことなく手間暇かけて作る祝宴の料理の数々は出席者たちに対しての最高のおもてなしになった』

菊地様『徐々にメニューが進み、お酒も入ってくると色々なテーブルで、青木社長、専務を囲んで記念撮影が行われている。そして、宴を楽しむ参加者たちから、青木社長を中心に円ができ、とうとう合唱まで始まったときは驚いた。これはまるで結婚式の新郎新婦がテーブルを回る挨拶みたいじゃないか。いやそれ以上だと』

菊地様『宴半ば、いよいよ芹洋子さんの登場だ、ミリオンセラーを記録した代表曲「四季の歌」でスタートする。そして1978年(昭和53)第29回NHK紅白歌合戦の出場曲「坊がつる讃歌」と続くが、清潔感あふれるその歌声は、ますます磨きがかかっている。そして最後に歌う「大分豊の国」は青木社長が自ら作詞したものだ。日本屈指の温泉県である大分の魅力をリズムカルに歌い上げて芹洋子さんが新境地を開拓したとされる話としばし、芹洋子さんの叙情豊かな歌声の余韻に浸っていた』

青木の作詞に芹洋子さんのCD入声盤

第一興商(DAM・カラオケ) (DAM No.)

①「温泉大分日本一」3年7月11日 No.1810-27

②「美しき山国川」3年7月11日 No.1810-28

③「大分豊の国」5年8月1日 No.1810-29

④「やばけい遊覧」5年8月1日 No.1810-30

菊地様『青木社長は大分県出身で、大分観光(かぼす)大使という』

菊地様『そして気がつくと、あっという間に2時間がたっていた。』

菊地様『最後に社長を含め14人社員のみなさんが壇上にはんてん姿で勢ぞろいされました。これから、青木社長の挨拶です』

青木社長の挨拶文

青木『本日はご参加本当に有り難うございました。

お楽しみ頂けましたでしょうか。

壇上のこのメンバーが当社の今のスタッフ達です。働き者で皆大変頑張り屋です。お陰様でコロナ禍ではありましたが、非常に良い成績でこうして「感謝の集い」を開催することが出来ました。仕入れ先を始め、お買い上げを頂いているお得意様、私を支えて下さる多くの皆様方、関係先の皆様、今日ご参加の皆様にご心より誠意と感謝を申し上げ、ご多幸、ご健康をお祈りし、私もお陰様で今の所大変元気で、今日、86歳の誕生日を迎える事が出来ました。これを機会に当社専務の青木一に社長を譲ることに致しました。どうか私と同様、ご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます、本日はご参加のお礼と感謝を申し上げます。

ここで専務の青木一に一言挨拶と閉会の言葉をお願いし、私の終了の挨拶といたします。本当に長い間有難う御座いました』

2023年(令和5年7月1日 青木行雄)

菊地様『これが式次第を受け取った時に感じた「青木社長より皆様へのお知らせ」、青木社長の上記のお知らせとなった。

参加者たちは予想もしていなかった社長の言葉に一様に驚いた様子をみせる。

そして青木専務は、「社長に就任させていただくにあたり、仕入れ先、お得意様、関係先の皆様、そして本日もご参加いただいた皆様にご心よりお礼申し上げます、これからは日青をどうぞよろしくお願い致します』



ジャパン建材(株)相談役 吉田繁様も御参加頂きました。



プロレスラーの藤波辰爾様に「万歳三唱」をお願いしました。

と述べた。

はじめ
一専務の挨拶が終了すると複数のテーブルから「頑張れよー」「よっしゃ」とどよめきの歓声があがった。そのテーブルの一团に目を移すと木材業界の若手の経営者たちだ。専務と日青の新たな門出を祝う励ましのエールだろう。専務と連帯する仲間たちがみんな、とびっきりの笑顔で祝福している。「いい風景だな」と思ってしまう。これからの日青木材のさらなる飛躍を確信させるフィナーレになった』
菊地様『突然、プロレスラーの藤波辰爾氏がステージに上がられた。「なにがはじまるのか」と思わず目をこらす。それにしても身体が逆三角形だ。いまでも鍛錬を怠らず頑強な肉体をキープしていることがスーツの上からでもわかる。マイクを握り、1972年デビューから50年以上現役であることを話される。いまでもリングに上がっていると言われたとき会場からは「ハァー」と感心する声もれる。まさにプロレス界のレジェンドだ。また、語り口が流暢であつという間にみんなの心をつかんでしまった。その藤波氏がなんとこの宴の締めとして「万歳三唱をさせていただきます」と叫ばれた。瞬間、社員の皆さんも驚きの表情をみせた。これは完全にサプライズだ。スポーツ界のレジェンドの「万歳三唱」ってなんて豪華なラストなのか。会場内は異様な熱気に包まれ、万歳の唱和がされたときに、それは最高潮に達した。藤波氏と握手をされた青木社長の笑顔が泣いているように見えてしまい、こちらまで目頭が熱くなってしまう』

菊地様『そして祝宴の終了を告げるアナウンスが流れる。会場内から万雷の拍手が巻き起こった。』

菊地様『会場の出口では、退場する人たちが心からのお祝いと御礼を社長・専務・社員の皆さんに伝えている。その例は、なかなか途切れることはない。参加者は社長交代という特別な場所にいることが出来たというちょっとした高揚感が消えずに会場を後にする。明治記念館を出ると、開始前はしっかりと降っていた雨が上がっていた。雨に濡れた新緑が目にも気持ちいい。「今日はなんか、いい日だった。来てよかった」と思いながら駅へと向かう道をたどった。輝かしい未来に羽ばたいてゆく日青木材(株)の行く手に幸多からんことを祈念しながら』

これだけの多才に充ちた感想文をくださった菊地様に大感謝を申し上げますと共に最後までお読み頂いた皆様にもお礼申し上げます。

※会の進行にご尽力頂いた木下様、司会をお受け頂いたA・ウィッキー様、映像の久保田様、会社社員の皆様、受付の皆様、明治記念館の皆様、関係する皆様にご心からお礼申し上げます。

令和5年7月30日 記